

＝ 普 及 情 報 ＝

No. 19

令和元年9月30日

東部農林振興センター出雲事務所農業普及部

標 題	雪害を受けたぶどうハウスが復旧～早期成園化を目指して～ (斐川町ぶどう生産組合)
-----	---

(ダイジェスト)

平成30年2月の大雪で斐川町ぶどう生産組合のぶどうハウスは大きな被害を受けました。被害は12カ所、被害面積は全半壊合わせて1haと甚大でしたが、今年2月に0.5haが復旧し、本年植栽した育成樹の生育も進んでいます。

昨年2月7日の大雪により、出雲市斐川町のぶどうハウスで倒壊等の大きな被害が発生しました。この雪害による全半壊合わせた被害面積はデラウェア40a、巨峰17a、ピオーネ11a、シャインマスカット27aで斐川町ぶどう生産組合の栽培面積の19%にあたります。高単収の園が雪害にあったことや、ハウスは無事だったものの高齢を理由に栽培面積を減らされる園があり、30年産の出荷量は前年対比でデラウェア56%、大粒系79%となりました。

この雪害をうけ、生産者・出雲市・JA・普及部等の関係機関が連携し、農業災害復興支援事業を利用したハウスの復旧に取り組み、今年2月に復旧を要望していた全てのハウスが復旧しました。

高齢を理由にハウスの再建を断念される生産者もおられ、復旧面積は0.5haに留まりましたが、再建されたハウスには現在の栽培品種と管理作業が重ならない品種や省力化の図られる品種等が植栽されました。9月の生育状況調査の結果では、多くの園で樹冠面積が拡大していることが確認されました。

今後、普及部としても関係機関と連携を取りながら、雪害前の単収に戻るよう育成樹の栽培管理の指導を行い、復旧ハウスの早期成園化を支援していきます。



雪害から復旧したハウス



ハウス内の様子(1年生のデラウェア)